

## 外国語科(英語コミュニケーションⅠ)学習指導案

日 時 令和〇年〇月〇日 (〇)  
 第6校時 14:15~15:00  
 対 象 〇 学 年 3 5 名  
 学校名 高等学校  
 授業者 〇〇 〇〇  
 会 場 教室

### 1 単元名

Lesson 1 “Japan’s New Tourism” *Power On English Communication I*

### 2 単元の目標

海外の人に関心をもってもらうために、日本の観光地の魅力について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、情報や自分の考えを理由や根拠とともに書いて伝えることができる。

### 3 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
<知識> 動詞の現在形、過去形、進行形、助動詞+動詞の原形を用いた文の形・意味・用法を理解している。 <技能> 日本の観光地の魅力について、動詞の現在形、過去形、進行形、助動詞+動詞の原形などの基本的な語句や文を用いて、情報や自分の考えを理由や根拠とともに書いて伝える技能を身に付けている。	海外の人に関心をもってもらうために、日本の観光地の魅力について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、情報や自分の考えを理由や根拠とともに書いて伝えている。	海外の人に関心をもってもらうために、日本の観光地の魅力について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、情報や自分の考えを理由や根拠とともに書いて伝えようとしている。

### 4 指導観

#### (1) 単元観

本単元は、高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）第 2 章、第 8 節、外国語、第 2 款 各科目、第 1 英語コミュニケーションⅠ、1 目標、(5) 書くこと、

ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができるようにする。

を受けて文構造や文法事項を正しく用いて正しい語順で文を構成し、まとまりのある文章を書くことを目標とする。

言語材料としては、2 内容、[知識及び技能] (1) 英語の特徴やきまりに関する事項、エ、文構造及び文法事項、(イ) 文法事項、

e 助動詞の用法  
 g 動詞の時制及び相など

を取り扱う。

また、〔思考力、判断力、表現力等〕、(2) 情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項、

イ 日常的な話題や社会的な話題について、英語を聞いたり読んだりして得られた情報や考えなどを活用しながら、話したり書いたりして情報や自分自身の考えなどを適切に表現すること。

を受け、得た情報を基に思考・判断して自分の考えを構築し表現する技能統合の指導行う根拠とした。

言語活動については、(3) 言語活動及び言語の働きに関する事項、

① 言語活動に関する事項

カ 書くこと

(7) 身近な出来事や家庭生活などの日常的な話題について、使用する語句や文、文章例が十分に示されたり、準備のための多くの時間が確保されたりする状況で、情報や考え、気持ちなどを理由や根拠とともに段落を書いて伝える活動。

② 言語の働きに関する事項

イ 言語の働きの例

(ウ) 事実・情報を伝える  
・説明する

を念頭において指導計画を立案した。

単元の最終段階では、海外の人に関心をもってもらうために、日本の観光地の魅力について、書いて伝えることができるようになることを目標とする。

なお、第1学年最初の単元で「書くこと」を目標に設定したのは、コロナの状況によって蔓延防止等重点措置が実施された場合に、ペアワークやグループワーク、発表など控える必要があるため、「話すこと」を目標にすることが難しくなると考えたからである。

今回、目標及び記録に残す評価については「書くこと」に絞っているが、「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと」についても指導と形成的評価は行う。

## (2) 生徒観

本校では、「英語コミュニケーションⅠ」を基礎クラスと標準クラスに分けて指導しているが、本学級は標準クラスである。基礎クラスと標準クラスのどちらを選択するかは、生徒の判断に委ねられている。標準クラスを選ぶ生徒は、英語の学習に対して意欲的に取り組んでいるが、出席状況が安定しない生徒もいるため、前時までの復習を織り交ぜながら授業を進めるようにする。

本校の生徒は、傾向として「読むこと」に比べ「聞くこと」や「書くこと」、「話すこと」に課題がある場合が多い。本単元では入学したばかりの第1学年が対象だが、「聞くこと」に慣れさせるため基本的に英語で授業を行う。また、教科書の本文に関連した内容を話させたり、読んだことを基に書かせたりすることで、これまでの本校の生徒に見られる弱点を踏襲しないようにする。

## (3) 教材観

本単元では、いわゆる観光地を巡る従来のタイプの旅行に加えて、体験や交流の要素を取り入れたニューツーリズムという旅行形態をALTが紹介する内容となっている。本題材を参考にして、日本の観光地の魅力について、生徒が自分の意見や感想を交えながら書く活動を単元の目標とした。

5 年間指導計画における位置付け

月	単元名	学習内容・言語材料
4	Lesson 1 (本単元) Japan's New Tourism	<ul style="list-style-type: none"> <li>外国からの観光客に人気の体験型ツーリズムを紹介するALTの話</li> <li>動詞の現在形、過去形、進行形、助動詞+動詞の原形</li> </ul>
5	Lesson 2 Light from Creatures	<ul style="list-style-type: none"> <li>生き物が光る理由や、その光が医療研究に利用されていることに関する生徒による発表</li> <li>受け身、現在完了形、現在完了進行形</li> </ul>
6	Lesson 2 Light from Creatures	<ul style="list-style-type: none"> <li>スポーツクライマーである野口選手のインタビュー</li> <li>動名詞、不定詞、S+V+O [that 節]</li> </ul>
7	Lesson 3 Routes to the Top Lesson 4 Left to Right, Right?	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本のマンガの形式やその翻訳に関する留学生による発表</li> <li>後置修飾の現在分詞、後置修飾の過去分詞、比較級・最上級</li> </ul>
9	Lesson 5 Banana Paper	<ul style="list-style-type: none"> <li>ザンビアのバナナの茎から作られるバナナペーパーへの日本の伝統技術貢献に関する講義</li> <li>関係代名詞（主格）、関係代名詞（目的格）、S+seem+to不定詞</li> </ul>
10	Lesson 6 Patterns in Human Behavior	<ul style="list-style-type: none"> <li>人間の興味深い行動パターンに関する実験の手順や結果を解説する雑誌記事</li> <li>It+be 動詞+形容詞+that 節, S+V [be 動詞以外+C], S+V+O+C [形容詞]</li> </ul>
11	Lesson 7 No Plastic or No Future	<ul style="list-style-type: none"> <li>プラスチックがもたらす環境破壊に関する論説文</li> <li>関係副詞 where, 関係副詞 when, 関係代名詞 what</li> </ul>
12	Lesson 8 Oh My Cod!	<ul style="list-style-type: none"> <li>イギリス人ALTによるフィッシュ・アンド・チップスの歴史と食料資源に関する発表</li> <li>現在分詞の分詞構文、関係代名詞の非制限用法、過去完了形</li> </ul>
1	Lesson 9 Is E-sports a Real Sport?	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界中の若者の間で人気があるeスポーツの実況中継</li> <li>S+V [知覚]+O+[現在分詞, 原形不定詞], S+V [使役]+O+C [原形不定詞], S+V+O<sub>1</sub>+O<sub>2</sub> [if などの節]</li> </ul>
2	Lesson 10 Being Different Is Beautiful	<ul style="list-style-type: none"> <li>写真家ヨシダナギさんに関する雑誌記事</li> <li>wish+仮定法過去の節, 仮定法過去のas if 節, 仮定法過去のif 節</li> </ul>
通年	定期考査	<ul style="list-style-type: none"> <li>技能・領域を明確にして、問題を作成する。</li> </ul>
	「話すこと」のパフォーマンステスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>スピーチ発表、ALTとのインタビューテスト</li> </ul>

6 単元の指導計画と評価計画（全8時間）

時	目標	○学習活動 ・学習内容	評価規準(評価方法)		
			ア	イ	ウ
第1時	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在形、過去形の形と意味、使用場面を理解する。</li> <li>Part 1の概要と要点を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 言語材料の理解                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教師のオーラル・イントロダクションを聞いて、現在形と過去形がどのような意味かを予想し、その用法や意味を理解する。</li> </ul> </li> <li>○ Part 1の内容理解                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本文を黙読し、概要把握のための質問に答える。</li> <li>・ 教師の質問に答えながら本文の内容理解を深める。</li> <li>・ 音読を通して内容理解を深める。</li> </ul> </li> </ul>	<p>一斉に記録に残す評価は行わない。ただし、ねらいに即して生徒の活動の状況を見届けて指導に生かすことは毎時間行う。</p>		
第2時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 表現活動に活用できるようにPart 1の言語材料を身に付ける。</li> <li>・ Part 1の内容を参考にして日本の観光地の紹介文を書くことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 言語材料の活用                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現在形、過去形の表現を含んだチャットをペアで練習する。</li> </ul> </li> <li>○ Part 1の復習                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教科書本文を定着させるための音読練習をする。</li> <li>・ 教科書本文を活用しながら、今までに学んできたことを生かして英語で書く。</li> </ul> </li> </ul>			
第3時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 進行形の形と意味、使用場面を理解する。</li> <li>・ Part 2の概要と要点を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 言語材料の理解                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教師のオーラル・イントロダクションを聞いて、進行形がどのような意味かを予想し、その用法や意味を理解する。</li> </ul> </li> <li>○ Part 2の内容理解                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本文を黙読し、概要把握のための質問に答える。</li> <li>・ 教師の質問に答えながら本文の内容理解を深める。</li> <li>・ 音読を通して内容理解を深める。</li> </ul> </li> </ul>			
第4時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 表現活動に活用できるようにPart 2の言語材料を身に付ける。</li> <li>・ Part 2の内容を参考にして日本の観光地の紹介文を書くことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 言語材料の活用                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 進行形の表現をチで練習する。</li> </ul> </li> <li>○ Part 2の復習                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教科書本文を定着させるための音読練習をする。</li> <li>・ 教科書本文を活用しながら、今までに学んできたことを生かして英語で書く。</li> </ul> </li> </ul>			
第5時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 助動詞+動詞の原形の形と意味、使用場面を理解する。</li> <li>・ Part 3の概要と要点を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 言語材料の理解                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教師のオーラル・イントロダクションを聞いて、助動詞+動詞の原形がどのような意味かを予想し、その用法や意味を理解する。</li> </ul> </li> <li>○ Part 3の内容理解                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本文を黙読し、概要把握のための質問に答える。</li> <li>・ 教師の質問に答えながら本文の内容理解を深める。</li> <li>・ 音読を通して内容理解を深める。</li> </ul> </li> </ul>			

第6時 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> <li>表現活動に活用できるようにPart 3の言語材料を身に付ける。</li> <li>Part 3の内容を参考にして日本の観光地の紹介文を書くことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 言語材料の活用 <ul style="list-style-type: none"> <li>助動詞+動詞の原形の表現を含んだチャットをペアで練習する。</li> </ul> </li> <li>○ Part 3の復習 <ul style="list-style-type: none"> <li>教科書本文を定着させるための音読練習をする。</li> <li>教科書本文を活用しながら、今までに学んできたことを生かして英語で書く。</li> </ul> </li> </ul>	<p style="text-align: center;">一斉に記録に残す評価は行わない。ただし、ねらいに即して生徒の活動の状況を見届けて指導に生かすことは毎時間行う。</p>
第7時	<ul style="list-style-type: none"> <li>Actionを活用しながら書くための準備をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ Actionの概要把握 <ul style="list-style-type: none"> <li>最後の書く活動で使える表現を理解し、練習する。</li> <li>まとまりがある文章の構成を理解する。</li> </ul> </li> </ul>	
第8時	<ul style="list-style-type: none"> <li>海外の人に関心をもってもらうために、日本の観光地の魅力について書くことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書本文を活用しながら、自分が選んだ日本の観光地の魅力について、自分の考えや感想を交えながら書き、オンラインに限定公開する。</li> </ul>	
後日	提出した英文及び定期考査におけるペーパーテスト		○ ○ ○

<「書くこと」における評価の条件>

- 「思考・判断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」は、以下の条件を設けて評価する。

<p>条件1：観光地を紹介するに当たって、学習した表現を活用している。</p> <p>条件2：紹介する観光地の魅力について、選んだ理由や自分の考えを二つ以上述べている。</p> <p>条件3：「導入、本文、結論」という文の構成を明確にし、相手に分かりやすくなるように工夫している。</p>
--

	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
a	三つの条件を満たした上で、自分の考えや観光地の特長などを効果的に述べながら、魅力をアピールしている。	三つの条件を満たした上で、自分の考えや観光地の特長などを効果的に述べながら、魅力をアピールしようとしている。
b	三つの条件を満たして書いている。	三つの条件を満たして書こうとしている。
c	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。

## 7 指導に当たって

- ア 生徒一人一人が自分の興味のある日本の観光地について情報を収集し、自分の考えを含めて書くように促すことで「主体的な学び」につなげる。
- イ 生徒の気付きを授業の中に反映する意見交換の場を設定したりペアワークを取り入れたりして、自分と異なる他者の考えから自分の考えを広げる「対話的な学び」につなげる。
- ウ 周りの人が書いたものを読んで参考にするなどして自分の考えを構築し、「深い学び」を促す。

## 8 本時（全8時間中の第6時）

### (1) 本時の目標

Part 3の内容を参考にして日本の観光地の紹介文を書くことができる。

### (2) 本時の展開

時間	○ 学習内容 ・ 学習活動	指導上の留意点・配慮事項	評価規準 (評価方法)
導入 (6分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 挨拶</li> <li>○ 目標の提示                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本時の目標を確認する。</li> </ul> </li> <li>○ チャット                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ペアになって、与えられたテーマについて英語でやり取りを行う。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 英語で一言話し掛けることで、英語の授業の雰囲気をつくる。</li> <li>・ 本時の見通しをもたせるとともに、個々の目標について考えさせる。</li> <li>・ コミュニケーション・ストラテジーを用いるように指示する。</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: fit-content;">                     ねらいに即して生徒の活動の状況を見届けて指導に生かすことは行いが、記録に残す評価は行わない。                 </div>
展開1 (10分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 新出語句の練習                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ペアで音読をする。</li> <li>・ 個々に音読をする。</li> <li>・ 全体で確認をする。</li> <li>・ 教師が日本語を言い、生徒が英語を言う。</li> <li>・ ペアで語句を日本語から英語にする。</li> </ul> </li> <li>○ 本文の復習                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ CDを聞き、教科書本文の内容を思い出す。</li> <li>・ Part 3の内容を教師とやり取りをしながら確認する。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒がうまく発音をできない単語は何度か練習をさせる。</li> <li>・ 生徒になるべく英語で答えるように促す。</li> </ul>	
展開2 (12分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 音読練習                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Listening CDを聞き、発音の確認をする。</li> <li>・ Chorus Reading 教師の音読に続いて音読をする。</li> <li>・ Overlapping CDの音声に合わせて音読をする。</li> <li>・ Buzz Reading 個人で音読する。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発音の確認をするように伝える。</li> <li>・ 文単位で音読練習をさせ、発音ができている場合にはチャンクごとに音読をさせる。</li> <li>・ 一文を Read, Look up and Say す</li> </ul>	

	<ul style="list-style-type: none"> <li>Read, Look up and Say 1文ずつから始めて、複数の文を音読する。</li> <li>Pair Reading ペアで本文の一部を言えるかを確認する。</li> </ul>	<p>るところから複数の文を一度にRead, Look up and Sayをさせることで負荷をかけていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>可能であれば、生徒の考えや感想等を加えて言うように促す。</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; text-align: center;">       ねらいに即して生徒の活動の状況を見届けて指導に生かすことは行いが、記録に残す評価は     </div>
展開3 (15分)	○ 書く活動 <ul style="list-style-type: none"> <li>時間を与えて、音読練習したPart 3の内容に自分の意見や考えを加えて書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>第8時の書く活動につなげる意識をもたせる。</li> <li>Part 3の内容を活用して、生徒が紹介したい観光地について書けるようであれば書かせる。</li> </ul>	
まとめ (2分)	○ 振り返り <ul style="list-style-type: none"> <li>書いたものをペアで共有をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ペアでよい点や更に知りたい点についてコメントし合うことで、自分の書いた英文について自己評価する。</li> </ul>	

(3) 板書計画

Goal of this Lesson

  
  

Today's Goal

  
  

スクリーン

(4) 授業観察の視点

- ア 生徒は、自らの目標をもって主体的に取り組み、他者の考えなどを参考しながら考えを広げようとしていたか。
- イ 生徒は、今回の授業で行っている学習活動が、自分が選んだ日本の観光地の魅力について書く最終目標を達成するためのものであることを意識できていたか。
- ウ 生徒は、「書くこと」の活動に意欲的に取り組んでいたか。